



末吉美帆子
平成 24 年 9 月議会一般質問

視察報告 Report 1-2

- * 小水力発電導入、屋上太陽光発電推進
- * 高齢者等のごみ分別支援について
- * 高齢者福祉バスの課題
- * 民生委員経験者の知見活用
- * 産後ママ支援の充実を
- * 災害時「母子救護所」の整備を
- * 小手指市民ギャラリーを使いやすく！
- * 図書館の充実にむけて
 - ・蔵書・雑誌配置充実策
 - ・学習、交流の拠点として
 - ・図書館ビジョンの検討の進捗状況
- * 市民プールの今後
 - ・プール祭りの成果は？
 - ・障害者への対応
 - ・市のプール施策の今後の検討予定は？
- * 業務停止になった産廃業者に対する県との連携



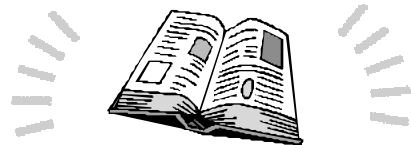
* 小水力発電導入、屋上太陽光発電推進について

足利市などで公共施設の屋根貸し事業が始まっています。既存住宅で設置できる「おひさまゼロシステム」団地やマンション、学校などの広い屋根の有効利用も期待できます。

自然エネルギー活用を一般質問しましたが「期待して下さい！」と部長から、答弁には珍しい前向き積極的発言。期待します！ 電気の地産地消でエネルギー自給を目指しましょう。市民も協力できることはしていきたいですね！

* 図書館の充実にむけて（蔵書・雑誌配置充実策）

企業や団体から寄贈を受ける「雑誌スポンサー制度」を導入します。図書館配置の雑誌が充実します。



1. 福島第二原子力発電所・広野火力発電所

7月に「福島第二原子力発電所」で、停止中の原子炉建屋内格納容器まで全て見せて頂きました。

海拔 15m まで津波に浸水され使用不能になった電動機は、3月15日早朝に全号機冷温停止を達成。明暗を分けました。テレビ会議室も今は静かに画面を流しているだけでした。

第一原発へ 3000 人、第二原発へ 1500 人の作業員を送り出し健康管理を行う「ヴィレッジ」から、発電所へ向かう立ち入り禁止地域の富岡町、楢葉町は言いようもなく寂しく切ない無人の町でした。

福島第一、第二原発と 30km 離れて建つのが「東電・広野火力発電所」です。同じように被災しながら、不眠不休の努力で4ヶ月後の電力危機の夏に復旧を果たしました。CO2 対策の研究も進み現在建設中の最新型火力の能力を伺い、自然エネルギーと最新火力の組み合わせで原発廃止しても電力供給心配なしと確信できました。



東電・広野火力発電所前にて



末吉美帆子のブログ・ツイッター

末吉美帆子

検索

クリック



日々の課題や議会の報告を出来る限りブログやツイッターに書き込んでいます。また議会の録画中継は所沢市役所ホームページで見ることができます。ぜひご覧下さい。

陸前高田市の市民体育館



2. 福島～宮城 ～岩手・陸前高田へ

約 350 名の死者、8 万棟住宅被害のいわき市に伺いました。原発周辺自治体からの避難者約 3 万人を受け入れており、消防救急、医療や廃棄物行政などが追いつかない。住民票移動しないため税収はなく矛盾が生じています。原発立地自治体への今後の早急な方針決定が望まれます。がれき仮置き場を見せて頂きましたがむしろ放射線測定器数値が一番高かったのは焼却灰です。焼却後の濃縮の怖さを改めて感じます。一刻も早い技術開発の適切処理を願います。

半分を山林が占める福島県。森林の放射線数値が高いことが懸念されます。除染または放射線影響が少ない木材の有効利用を早急に検討するべきです。

宮城県仙台市、気仙沼市を經由し、最後に岩手県陸前高田市役所に伺いました。沿岸部の平地に JR 駅を始め行政機関、住宅街が集中していたため 23000 人の人口の約 1 割が亡くなりました。

屋上まで水に浸かった市役所。市役所前は花や千羽鶴や線香が手向けられていました。公共施設はこれから少しずつ解体を進めます。

市民体育館は天井まで浸水し車がなだれ込んでいました。外と中の2つの時計は3時10数分を示したまま止まっていた。津浪1mと想定し体育館を避難場所に指定し全滅したこと、苦しい自省を未来につなげなければなりません。一本松を中心のメモリアル地域を作る予定です。

県からの出向職員が最後に「住環境も悪く激務で早く帰りたいと最初は思っていたが、もっと残りたいと思うようになりました」と語られました。プレハブ仮庁舎でがんばる皆さんに行政の原点を見ます。

復興まで道のりは短くないかもしれませんが、私たちは被災3県を決して忘れず応援します。

市民ネットワークはTPP反対、脱原発賛成です！